



～タイトル「玉燈」によせて～

「玉」は立派なものに磨きあげる、「燈」は教え、照らすを表し、「子どもへの愛育」と「情熱に満ち溢れる教師道」をイメージしています。また、「玉燈」は、郷土の先人 國友一貫斎の代表的発明品としても知られています。

わくわく

教育指導課長 高山 義雄

我が母校が創立 150 周年を迎え、先日、記念式典が開催されました。「小学生に戻って」と思い、北風の冷たい中ですが、約1キロの通学路を歩いて学校まで向かいました。歩いていると、いろいろ道草をしながら登下校した当時のことを思い出し、少し恥ずかしくなりながらも、小学生に戻れたような気持ちになって「わくわく」しました。

記念式典に向けて、学校では「懐かしの写真」を募集されました。私も応募しようと、昔のアルバムを引っ張り出し、子どもの頃の写真を眺めました。スマホで簡単に写真が撮れる今と違いますから、残っている写真の枚数は少なく、その分、1枚1枚の写真が当時のことをはっきりと伝えてくれます。

私が選んだ1枚は、運動会の時のもの。当時の運動会では、午後一番のプログラムが「鼓笛隊」でした。指揮者の「ピーッピ、ピッ、ピッ、ピッ」の笛の合図で小太鼓の演奏が始まり、「日の丸の旗」や「富士の山」の曲を全校で演奏しながら、パレードをしました。当時の情景が昨日のこのように思い出されるのと合わせて、その時の「わくわく」が今でもはっきりとよみがえります。

※写真には昔の校舎も写っています。校舎を見るだけで、当時のいろんな「わくわく」が思い出されます。今、学校に通っている子どもたちは、将来、どんな「わくわく」を思い出すのでしょうか。一つでも多くの思い出を心に残してほしいと強く願います。

私の教師人生の根底には、子ども時代の「わくわく」する思いがあります。「わくわく」する思い出を心に残していただいた当時の先生方に感謝をしながら、「私も教師となって、子どもたちと日々の「わくわく」を共有したい！」そんな思いで、教師を目指し、実際に、これまでを歩んできました。「わくわくすることをして、お給料がいただけるのか。なんて幸せ！」と思ったこともあります。本当にありがたいことです。

さて、「わくわく」をキーワードにこの玉燈の原稿を書いていると、市の教育センターで勤務をしていた時(9年前になりますが)、「学びの質向上のために～『授業づくりのすすめ』～」という冊子を作成したことを思い出しました。この冊子『授業づくりのすすめ』は、当時、市の教職員研修でお世話になっていた指導員の先生方の言葉を中心に、担任として大切にしたい事柄をまとめたもので、ページをめくると、今でも色あせない大切な言葉が並んでいます。

その中の、「わくわく感」のページの一部分を以下に紹介します。

子どもが「わくわく感」をもって学習するには、指導者も「わくわく」しながら授業をしなくてははいけません。指導者が「わくわく」するのってどんな時でしょう。

- 「考えたこの手立てで、うまくいだろうか？」
→いろんな手立てを考え、実践している時。
- 「子どもって、こんなことを考えるのかあ！」
→子どもの反応が、指導者の予想を超える時。

指導者が「こんな授業をしてみよう！」と思って授業をすると、子どもは「わくわく」しながら主体的に学習に取り組みます。そのために…。

(以下省略)

「わくわく感」は、先生から子どもたちに伝播するのでしょうか。先生方には、是非、「わくわく」しながら授業をし、子どもたちを「わくわく」させていただきたいと思えます。

最後に、冊子の同じページに、箕浦捨夫先生のお言葉が載っていますので、紹介します。この言葉を胸に、長浜の教育に関わっていただく皆さん全員と力を合わせ、子どもたちのよりよい将来のために頑張りたいと思います。引き続き、よろしく願います。

教育は共育

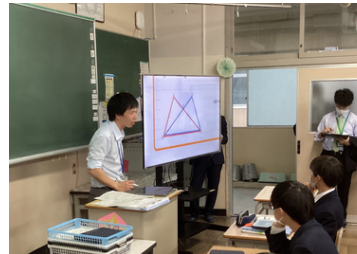
「子どもとともに授業を作り上げていくこと」をモットーとすべし。

ICT教育推進教師 公開授業

長浜市・彦根市・米原市の先生方と共に取り組んできたICT教育推進教師養成講座も今年度で3年目を迎えました。今年度も長浜市から10名の先生方が、子ども主体の授業づくりのためにどのようにしてICTを活用していくかを学ばれています。

また、全員が2学期には学んだことを生かして公開授業を実施してくださりました。

「意味のあるICT活用とはどのようなものか」という視点の授業は、参観いただいた先生方にとって、多くの学びと刺激を得た貴重な機会となりました。



教育研究発表大会について

3年ぶりの集合研修会です。ともに学びあえることを心より楽しみにしております。皆様のご参加をお待ちしております。

日時：令和6年 2月7日（水） 13:30~16:40

場所：浅井文化ホール

内容：教育研究奨励賞授業式
教育研究発表大会

算数科「思考力・判断力・表現力等」を育成する算数科の授業づくり
～数学的な表現（言葉・式・表・グラフなど）を用いた数学的活動の工夫と充実～

園小接続カリキュラム実践研究

～園小教職員のつながりを深め、子どもの豊かな学びを未来へつなぐ～

教育講演会 工藤 勇一 氏

「社会の変化とこれからの学校教育
～主体性と当事者意識～」

横浜創英中学・高等学校長

工藤 勇一 氏

山形県、東京都の公立中学校で教鞭をとり、東京都教育委員会、目黒区委員会、新宿区教育委員会教育課長を経て、令和2年3月まで千代田区麹町中学校長。同年4月より現職。教育再生実行会議委員、経済産業省「EdTech」委員、文部科学省「教育庁「教育長・校長プラットフォーム」」発起人などの公職も務める。



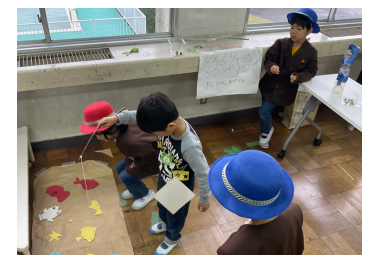
園小接続カリキュラム実践研究(1年次)

「タテ」と「ヨコ」の交流活動～幼児教育と小学校教育の滑らかな接続のために～

★幼保交流～ヨコのつながり～

今年度研究指定園となっている北郷里幼稚園とさくらんぼ保育園では、小学校との「タテのつながり」だけでなく、幼・保の「ヨコのつながり」も意識した交流活動を実践されています。

交流の目的として、他園(所)の子どもたちと交流することで、同世代のさまざまな友だちと関わる機会を設け、人とつながる力を育てること。また、保育者同士が交流し、他園(所)の教育・保育実践にふれ、幼児教育と小学校教育の滑らかな接続について共有し、そのための協力体制をとるなどがあり、交流する機会を数多く設けられています。



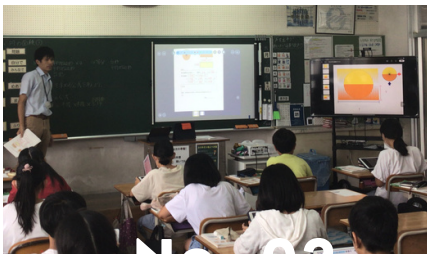
★幼保小交流～タテのつながり～

11月、北郷里小学校1年生が北郷里幼稚園5歳児(3名)、さくらんぼ保育園5歳児(16名)を学校に招待する交流活動が行われました。

1年生 生活科の単元を学習する中で、「おもちゃ屋さん」を開いて園児を楽しませたいという子どもたちの願いが、両園児との交流につながっていきました。1年生の子どもたちは「どうしたら園児たちを楽しませることができるか」という課題を解決するために、言葉で互いの思いや考えを伝え合い、同じ目的に向けて生き生きと活動する姿が見られました。

園児たちも、最初は慣れない環境で少し緊張した表情でしたが、1年生のお兄さん、お姉さんとの交流をととても楽しんでいました。

「思考力・判断力・表現力等」を育成する算数科の授業づくりに関する研究(2年次)



南郷里小学校6年生 研究実践授業 藤田真哉教諭

「思考力・判断力・表現力等」を育むために、自分の考えを表現し、伝え合う活動が充実した授業を実践されています。相手意識をもって筋道を立ててわかりやすく説明する力を育むために、ICTを効果的に活用しながら授業をされています。



長浜小学校6年生 研究実践授業 城市泰勢教諭

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した授業を実践することで、自力解決の後の「学び合い」の時間を充実させたり、「学習の個性化」を意識した個別学習では、子どもが自分の学力やペースに合わせて課題に取り組んだりするなど、興味・関心をもとに主体的な学びに取り組める工夫をされています。

こどもサポートルームなないろ

登校したいけど
行けない

学習がしんどい

人の目が
気になる

学校に行きたくない
理由がわからない

さまざまな理由で学校に行けない、行きにくさを感じている児童生徒たちが安心して過ごせる場として、市内に6つの教室〈居場所〉を開設しています。なないろでは、学校とは別の学びの場として、一人一人の良さを認め、個に応じた活動・指導を行いながら無理のない学校復帰と社会的自立を目指した支援をしています。



大地の家
〈浅井支所2階〉



あざい
〈浅井体育館東側〉



ひまわり
〈長浜市朝日町〉



ジョイ
〈高月支所3階〉

なないろ Q & A

活動する時間や曜日は？

- 活動場所や時間、曜日については個々に相談して決めます。
- 週1回1時間の子や毎日来ている子とさまざまです。

どんな活動をしていますか？

- ゲーム（ボードゲームやカードゲームなど）
 - 運動（卓球やバドミントンなど）
 - 創作（プラバンやアイロンビーズなど）
 - 学習（学校の宿題や課題など自分のペースで行います）
- * 活動内容は個々によって違います。



みらい
〈湖北支所3階〉



ほっと
〈スティックホール内〉

活動例

1. ゲーム
(ボードゲーム)
2. 創作
(アイロンビーズ)
〈1時間〉

1. 学習
(プリントやiPadを使って)
2. 運動
(卓球・バドミントン)
3. ゲーム
(カードゲーム)
〈2時間〉

なないろの
紹介動画



- ① 1. ゲーム
2. 創作
- ② 1. 学習
2. 運動
〈週2回〉

